

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1071100372		
法人名	株式会社 テイエムコーポレーション		
事業所名	グループホームけやき		
所在地	安中市中宿 1-9-17		
自己評価作成日	平成22年10月16日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成22年11月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

① 入居者の希望聞いて毎日の散歩や外出及びドライブに行くことが多く、気分転換や、季節感を感じてもらっている。② 毎食前の嚥下体操、毎日の筋力トレーニングを行っている。③ 医師は月2回、歯科医は随時往診に来ていただいており医療との連携は密にとっている。看取りは希望によりその人らしく尊厳をもって安心して終末期を過ごしていただけるように努力しています。④ 地域の人々のご協力があり、お祭り、餅つき大会、芋掘り、歌のボランティア、隣の店のお花や野菜を見て家で野菜作りを思い出したり知人に会いコミュニケーションの場となっている。⑤ 家族の方がいつでも来所していただけるようになっており家族とのコミュニケーションを図り信頼関係を築くように努力している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居者が地域社会の一員として暮らしているために、散歩を兼ねる毎日隣接の農産物直売所に行き、屋台で買い物をしたり、知人との会話を楽しんでいる。また、公民館の餅つき大会等の地域行事に参加したり、農家の人から枝豆を頂く等地域との交流促進に努めている。入居者の洋服や化粧等の好みはカンファレンスで話し合い職員で共有し、個々の入居者がその人らしい生活が送れるよう支援している。天気の良い日には入居者から外出の声かけがあり、観音山や碓氷湖等へ弁当を持参しドライブに出掛け、時には入居者の希望で「峠の釜飯」を購入し楽しんだりするなど、入居者本位の支援をしている。家族や本人が安心して日々生活して頂くよう重度化や終末期に向けたマニュアルを作成し、契約時に家族へ説明している。重度化した場合には、状態の変化毎に医師や家族との話し合いを重ね、その都度家族と「意思確認書」を取り交わしている。終末期には「急変時確認」を家族と行い、看取りを行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	カンファレンスでケアの振り返り時職員と理念の確認をして共有して実践している。	「尊厳・安全・自立・安心・自由」を理念に掲げ、事業所の基本方針として「地域社会の一員として、その人らしい暮らしが続けられる」運営を行っている。	グループホームの基本方針である「家庭的な環境と地域住民との交流の下で」の目的や役割を管理者・職員で話し合い、基本方針に沿った理念の見直しをされるよう期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	回覧板や地域のお祭り、餅つき大会、芋ほり等地域の方が声掛けしてくださったり、隣のお店には毎日散歩に出かけ、お花や季節の野菜を見たり地域の方と触れ合いが出来楽しみにしている。定期的にボランティア活動に来所してくれている。	自治会に加入し、公民館の餅つき大会に参加したり、仲宿祭りを見物したりしている。また、農家の好意で毎年さつま芋の芋掘りしたり、隣接の農産物直売所で知人との会話を楽しんだり、屋台で焼き鳥や焼き芋を買ったりしている。各種の慰問を受け入れる等地域との交流促進に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生の職場体験学習の受け入れを行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営委員会議でサービス実際、評価への取り組み状況について報告や話し合っ意見を取り、情報も参考にして前向きに取り組んでいる。	会議は偶数月に開催し、時には構成員や入居者・家族が参加するバーベキュー大会等の行事と併せ開いている。会議では、事業報告等の他「熱中症・脱水」等の講演会を開き、各種の情報交換を行ない事業所運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市とはメール、携帯電話等のやり取りを行なって連絡を密に取って関係を築くようにしている。	市が毎月開催する伝達会議に出席し、入居状況等の情報交換を行なっている。また、電話で会議の日程調整等を行なうと共に、介護相談員2名が毎月末に来所し入居者と懇談している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	徘徊者がいて交通量の多い場所なので玄関のドアは2箇所あり1箇所締めているがもう1箇所は昼間は常時あけている。職員は身体拘束禁止のことは研修や勉強会で学び理解しているため他の身体拘束はいいしていない。	玄関は靴脱ぎの空間を挟み、外側ドアと内側ドアがある。徘徊者がおり、安全確保のため内側ドアは常時施錠している。	鍵をかけることを常態化することなく、徘徊者の原因究明と解決策等の検討を今後も行い、鍵を掛けないケアに取り組まれるよう期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修で学んでいるので虐待を見逃ごしのないように職員は注意を払って防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者は研修を受け学び活用できるように職員とも学ぶ機会をもち話し合っており、青年後見制度を利用する家族に情報を提供して支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をして疑問点が無いか伺い理解や納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営委員委員会で家族の意見、要望を伺って運営に反映させている。また面会時には意見や要望が無いか必ず聞いている。	毎月の利用料を持参した際に事務室で管理者が家族と1対1で対応し、意見等を言い易い雰囲気作りに努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	週1回カンファレンスを行っており、又職員全員の会議でも意見や提案を聞く機会を設け運営に反映するようにしている。	年2回開く職員会議や毎週月曜日に関ケアカンファレンスで、職員の意見を聞いている。改善事例としては、勤務の時間帯や人員数を話し合い変更したり、外出行事計画の立案を入居者の希望を取り入れて職員が行うこととしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、職場環境、条件のを考慮している。働きながら資格を取得する人には時間の配慮や金銭的援助もしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの能力を把握して研修に参加していただき、働きながら取得できるヘルパーや介護福祉士、支援専門員の資格取得のために勤務を考慮したり受験のために費用の援助もして職員を育てている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護支援専門員の会合や勉強会等同業者との交流して質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所希望時には施設長、管理者(介護支援専門員)や職員が自宅又は施設に訪れて、本人と会い本人にもホームに来て頂き困っていること、不安なこと、要望等を伺いラポールをしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とも何回かお会いして、困っていること、不安要望等を伺いよい関係になり信頼頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期の対応で、今どんなサービスが必要かを見極めて家族と話し合い、他のサービス利用も含めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事(掃除、雑巾縫い、新聞紙折)をして頂き、職員に昔の話や、習慣等も教えて頂いたりして関係を築き共に暮らしを支え合っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族の連絡を密にしており、本人と家族の電話、手紙のやりとりの支援をし、面会時はゆっくりと本人とのお話ができるように湯茶で接待している。また外出、墓参りや外食にも連れていってもらっており、家族との関係を築くようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お墓参りの支援や帰宅願望の人を自宅に連れて行ったり、知人が訪れるのを歓迎して支援している。	家族と外食や墓参りに出かけたり、結婚式に出席している。また、安中地区敬老会に参加し馴染みの人たちとの会話を楽しんだり、友人が訪ねて来て思い出話をしたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握して、一人ひとりが孤立しないように声がけをしたり席替えをしたりして支え合えるよう関わり合いを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も家族が訪問してくださっており、亡くなった方のお葬式や1周期のお墓参りにも行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを密に取っており、どこにドライブに行きたいか、外食で何を食いたいのか、今日はレクリエーションで何をしたいのか、今日の食事は何を食いたいのか、散歩はどのコースにするのか等の希望や思い、意向を聞いて対応している。	スーパーで入居者が食べたい食材や食品の選択を行ったり、入居者の意向を取り入れたドライブや散歩コースを決めている。意思表示の困難な人は表情や仕草を観察し、意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴、暮らしの把握をして畑仕事をしていただいていた人には野菜の収穫をして頂き、縫い物が好きな人には雑巾縫いをしていただいたり他の利用者の取れたボタンをつけていただいています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの過ごし方や毎日バイタル測定をしているのでその時の心身の状態を把握出来ている。本人の有する力によりレクリエーションで何をすべきかを考え支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族が来所した時は家族の意見を聞き、職員は週1回のカンファレンスを行って介護計画を作成している。	モニタリングはカンファレンスノートで代用しているが、カンファレンスノートの決定事項が介護計画に反映されていない項目がある。また、職員には夜勤時に介護計画を見るよう指導している。	毎月モニタリングを行い、それを基に現状に即した介護計画を作成し、介護計画に基づき統一したケアをされるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録をつけており、カンファレンスで気づきや情報は職員間で共有しながら実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況を踏まえてサービスの多様化に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	散歩で季節の花や野菜を見たり、芋堀をさせていだいたり、お祭り餅つきに招待されたりして暮らしの向上に努めている。又老人センターでカラオケをしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は家族が選び、月2回の往診日には医師に情報を提供しており家族の希望も伝えかかりつけ医からも月2回情報を頂き適切な医療を受けられるよう関係を築きながら支援している。	入居者全員が協力医の往診を月2回受け、緊急時には職員が対応している。受診後は家族に「情報提供書」をファックスし、入居者の健康状態や服薬等の状況提供を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が常勤で勤務しているので、気づきや情報をその時伝えたり、カンファレンス時看護婦に相談して適切な、受診や医療を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は職員がお見舞いに行き洗濯物を取りに行き洗濯し届けているので病院関係者との情報交換をして関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルは早い時点で家族と話し合い、急変時の対応の確認書を家族から頂いているが家族の気持ちの変化等ある場合は随時書き直していただいている。看取りの説明は何度も家族に説明をして方針を共有している。	重度化や終末期に向けたマニュアルを作成し、契約時に家族へ説明している。重度化した場合は、状態の変化毎に医師や家族との話し合いを重ね、その都度家族と「意思確認書」を取り交わしている。終末期には「急変時確認」を家族と行き、看取りを行っている。また、職員とはケアカンファレンスで方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	転倒や嚥下困難な方がいるので利用者の緊急の対応の方法は訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策は非難出来る方法を全職員が身につけており地域の協力体制も運営委員会で支援を頂けるようになっている。。	避難経路や避難場所を指定し、年2回の避難訓練のうち1回は消防署の指導の下に夜間想定訓練を行っている。近隣の人達との連絡網を整備し、訓練に参加している。また、食品や飲料水を備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常にカンファレンスでけやきの理念の1つである尊厳について話し合っており、一人ひとりの人の人格やプライバシーを損ねないようにケアの向上に心がけている。	洋服や化粧等入居者一人ひとりの好みをカンファレンスで話し合い、その人らしい日々が送れるよう支援している。また、トイレ誘導や失禁の際の言葉かけは、目立たずさりげなく対応し、入居者の話は否定せず聞くよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	今日は何をしたいか、どこに行きたいか何を食べたいか、着替えでどの服を着たいのか等生活の中で思いや希望を表出出来るように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望を優先して、一人ひとりのその人らしさを大切にして暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧している方の化粧品等の買い物支援や、ボランティアの髪カットの支援を行い、外出時の衣服選び等身だしなみ、おしゃれの支援を行っている。おしゃれの方には手鏡のプレゼントをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の力量により野菜の筋とり、皮むき、テーブルの台拭き等行っており職員と一緒に食事して食事を楽しんでいる。	隣接の農産物直売所や近くのスーパーで入居者の好みの食材を選んでもらい、過去1週間の献立表を基に重複しないよう提供している。職員は、会話をしながら入居者と同じ食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師から減量の人、糖尿病でカロリー制限の人、お腹が減る人、食べ物の好き嫌、嚥下障害の人にはトロミをつけ、胃腸の弱い人にはお粥やキザミ食にしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後一人ひとり歯磨きをするように声掛けして歯磨きをしたか確認をしている。歯磨きが出来ない人には口腔清拭をして口腔内の清潔に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	オムツを使用している人も時間毎にトイレに誘導して排尿の失敗を減らしている。手すりできまり立ちがどうにかできる人のトイレでは現状維持を保つためにリハビリで手すり歩行の訓練をしている。	おむつ使用者もトイレでの排泄を基本とし、寝たきりの人でおむつ使用者も、排泄チェック表でパターンを把握し、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防は運動(散歩、腹部のマッサージ)や、朝一杯の水分補給、個々に応じた方法で取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴拒否する人には希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるようにして、個々にそった支援をしている。	夏場は週3回、冬場は週2回の入浴である。季節に併せた菖蒲湯などを行い、入り口に「湯」の暖簾を掛け、「けやき温泉に入りましょう」と声かけを行い、無理強いすることなく、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。また、近くの磯部温泉で足湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの習慣やその時の心身の状態により安心して休息したり気持ちよく寝られるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の目的、副作用、用法、用量等は理解している。服薬の支援と症状の変化の、副作用確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	祭日、誕生日会、楽し事を支援して、気分転換している。また牛乳嫌いの方にはココアを飲んでいただいている好き嫌いのある人には代替の物を提供している施設での催し事は一人ひとり役割を決めて行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日希望のコースで散歩をしている。ドライブ観梅、さくらの花見、コスモスの花見等榛名湖、観音山、鉄道文化村等のお弁当を持参しての外出支援又家族による外食、お墓参り、孫の結婚式等に出かけられるよう支援をしている。	ほぼ毎日散歩を兼ね隣接の農産物直売所で食材を買ったり、季節の花を鑑賞したり、時には近くの川原まで歩いている。天気の良い日は入居者から外出の声かけがあり、観音山や碓氷湖等へ弁当を持参しドライブし、時には入居者の希望で「峠の釜飯」を購入し楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理の出来る利用者は家族が財布を持たせて小銭が入れてあり、買い物は財布から支払い管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話は本人に取次ぎ本人と話していただいている。又本人が家族に電話をしたい時はダイヤルを回してあげて支援している。手紙も家族から来て職員が代筆をして本人に読んでいただいでから投函している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	床暖房、炬燵、温度計、湿度計、カーテン、天窗、高い天井、不快を感じさせないような環境に配慮して共同空間を作り、季節感を取り入れて季節のお花や飾り物を飾って、居心地よく過ごせるようにしている。	座席争いを避けるため、食卓やテレビを囲むソファの席次は定期的に席替えをしている。床暖房が施され、冬は炬燵が作られ、天井の扇風機が回り温度計・湿度計が備えられて温湿度管理がされている。菊の鉢植えを随所に配置して季節感を取り入れる等居心地良く過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファが何箇所か置いてあるので思い思いに過ごせる様になっているので一人になりたい時はひとりで過ごせるようになっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は各自好きなような家具類や飾り物、写真、テレビ、椅子等持ってきて使い慣れたものを置いているので居心地良く過ごせるように工夫している。	整理ダンスや藤椅子・テレビ、縫いぐるみや家族の写真が持ち込まれ、歌手のポスターが飾られている。棚には化粧水やクリーム、鏡などが置かれ、気持ちよく過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホールの手すりにつかまっの車椅子の利用者が歩行練習をしたり、部屋が分からない利用者の居室のドアに目印をつけていて洗面所は車椅子対応できるようになっている、トイレは手すりがついていて安全に生活が送れるように工夫している		